

# 第2次北見市子どもの読書活動推進計画

平成25年度～平成29年度

平成25年3月  
北見市教育委員会

# 目 次

## 第1章 計画策定にあたって

1. 計画の趣旨…………… 1
2. 計画の期間…………… 1
3. 計画の対象…………… 1

## 第2章 子どもの読書活動を取り巻く現状

### 第1節 北見市の現状

1. 子どもを取り巻く現状…………… 2
2. 家族や地域の現状…………… 3

### 第2節 子どもの読書活動の現状と課題

1. 子どもの読書活動の実態
  - (1) 全国的な子どもの読書活動の実態  
(読書世論調査より) …… 4
  - (2) 北見市における子どもの読書活動の実態…………… 6
  - (3) 学校図書館と公共図書館への期待…………… 14
2. 子どもへの図書館サービスの提供と利用の動向
  - (1) 子どもの読書活動への主な支援…………… 15
  - (2) 利用状況・児童書蔵書数…………… 16
  - (3) 地域での子どもの読書活動を支える活動…………… 16
  - (4) ボランティア団体等の活動…………… 16
  - (5) 青少年を対象としたサービス…………… 17
3. 子どもの年齢に応じた読書推進…………… 18
4. 課題の整理…………… 20

### 第3章 計画策定の基本的な考え方

1. 基本的な視点…………… 22
2. 成果指標…………… 23

### 第4章 施策の展開

#### 基本目標1 読書活動の環境について整備・充実を図る

- 基本施策(1) 家庭・地域における読書活動の推進…………… 24
- 基本施策(2) 市立図書館における読書活動の推進…………… 24
- 基本施策(3) 人材の育成…………… 25

#### 基本目標2 関係機関等との連携

- 基本施策(1) 学校等との連携…………… 26
- 基本施策(2) 幼稚園、保育園、児童館等の連携…………… 26

#### 基本目標3 啓発活動等の推進

- 基本施策(1) 子ども読書の日等における啓発…………… 27
- 基本施策(2) ホームページや図書館だより等による  
情報発信…………… 27

### 第5章 計画推進のために

1. 計画推進に向けて…………… 28
2. 計画の運用…………… 28

# 第1章 計画策定にあたって

## 1. 計画の趣旨

読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるなど、人生をより豊かに生きるうえで重要なものです。高度情報社会を迎えた現在では、インターネット、携帯電話などの普及で手軽に情報が手に入るようになった反面、氾濫する情報に正しい判断を下す「読解力」が、大切な能力の一つとなっています。

このような状況において、北見の子どもたちがさまざまな機会と場所で本と出会い、感動と知る喜びを体験できるよう、読書に親しむための環境整備を推進します。

平成13年12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成19年2月に北見市子どもの読書活動推進計画「北見市子ども読書プラン」（以後、1次計画と表現します。）を策定しましたが、平成24年度をもって5年間の計画期間を終了することから、国の新たな指針やこれまでの取り組みや読書を取り巻く環境の変化などをふまえて、今後5年間の子どもの読書推進に関する計画として「第2次北見市子どもの読書活動推進計画」を策定し、北見市の子どもの自主的な読書活動を推進します。

## 2. 計画の期間

この計画は、平成25年度からおおむね5年の計画として策定します。

## 3. 計画の対象

この計画は、北見市内の0歳からおおむね18歳までの子どもを対象とします。

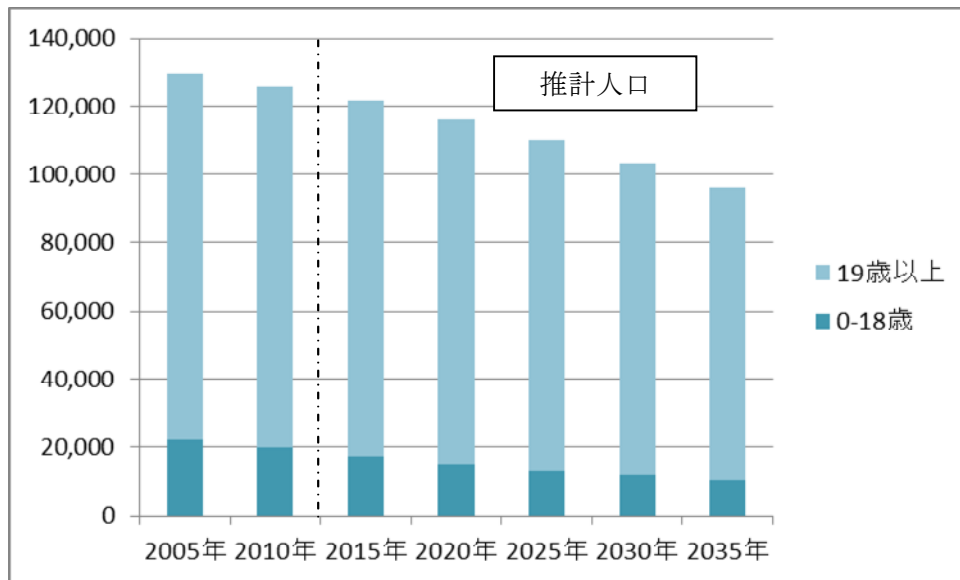
## 第2章 子どもの読書活動を取り巻く現状

### 第1節 北見市の現状

#### 1. 子どもを取り巻く現状

平成24（2012）年4月の総人口は、124,312人で、このうち0歳～18歳の人口は、19,524人（15.7%）です。全国的な少子高齢化の傾向が北見市でもみられ、20年後の子どもの数は、約半数になることが予想されています。

北見市の人口と将来の推計人口（全体）



将来の北見市の人口

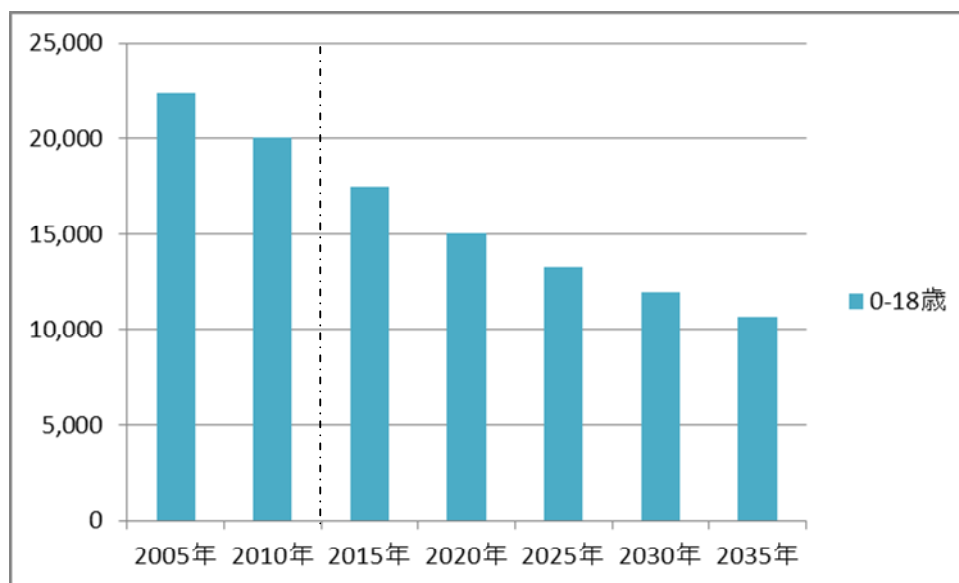
	総人口（人）						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口	129,365	125,820	121,514	116,191	110,004	103,300	96,177

国立社会保障・人口問題研究所

(<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson08/t-page.asp>) データより

2005年、2010年についても当該データを引用。

## 北見市の人口と将来の推計人口（18歳以下）



### 将来の北見市の子ども人口および指数(18歳以下)

	0-18歳人口（人）						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口	22,369	19,776	17,343	15,047	13,063	11,564	10,322

国立社会保障・人口問題研究所・結果表Ⅱ-2 将来の市区町村別生産年齢（15-64歳）人口

（<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson08/kekka2/kekka2-2.html>）データより、15歳～18歳人口は「15歳～19歳人口」の4/5として概算値を計算した。

2005年、2010年についても当該データを引用。

## 2. 家族や地域の現状

全国的な傾向と同しく、北見市でも少子高齢化・核家族化が進んでいます。平成21年度に行われた「北見市次世代育成支援ニーズ調査報告書」によると、この調査に協力していただいた大半の家庭では、主に母親がお子さんの世話をしています。（就学前児童では96.5%、小学校児童では92.9%の割合となっています）

また、子どもとの同居・近居の状況では、両親との同居については、就学前児童が91.6%、小学生が81.2%であり、母同居（ひとり親）については、就学前児童が8.2%、小学生が16.1%です。また、保護者の約4割が、読み聞かせのボランティア活動を経験しています。

## 第2節 子どもの読書活動の現状と課題

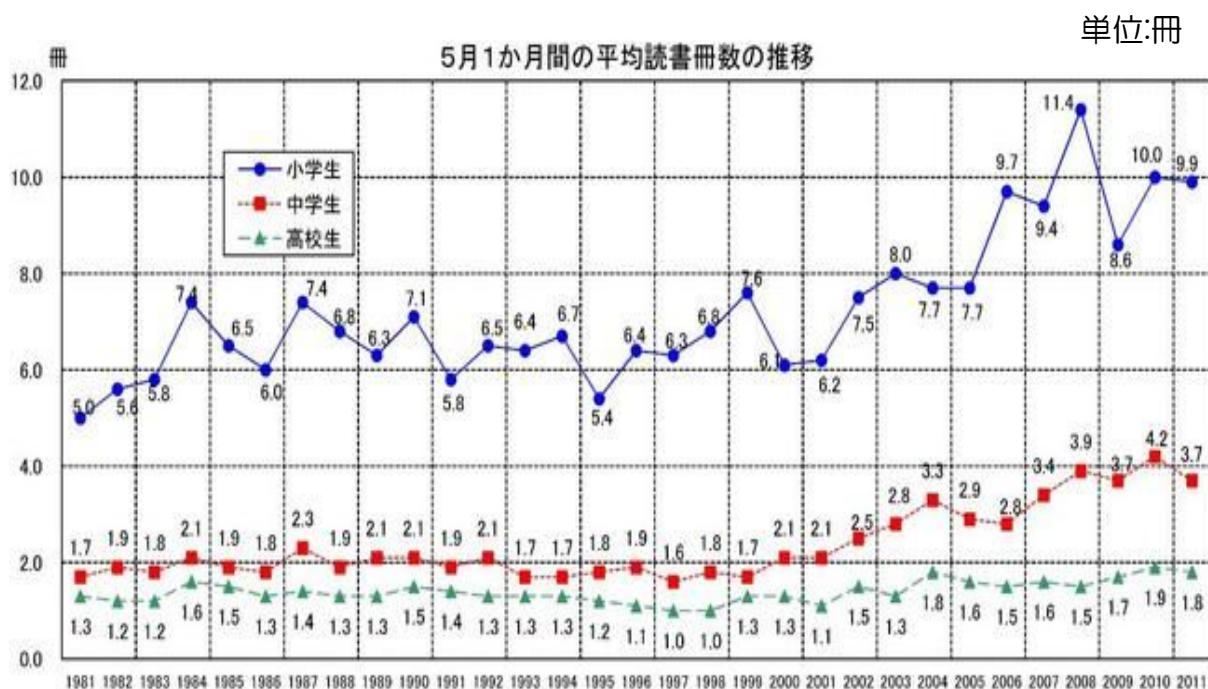
### 1. 子どもの読書活動の実態

#### (1) 全国的な子どもの読書活動の実態（読書世論調査より）

読書をめぐる状況を把握するため、毎日新聞社が1947年から継続的に行っている読書世論調査のうち、小中高生を対象に行っている「学校読書調査」の結果から、書籍と子どもの意識について以下にまとめます。

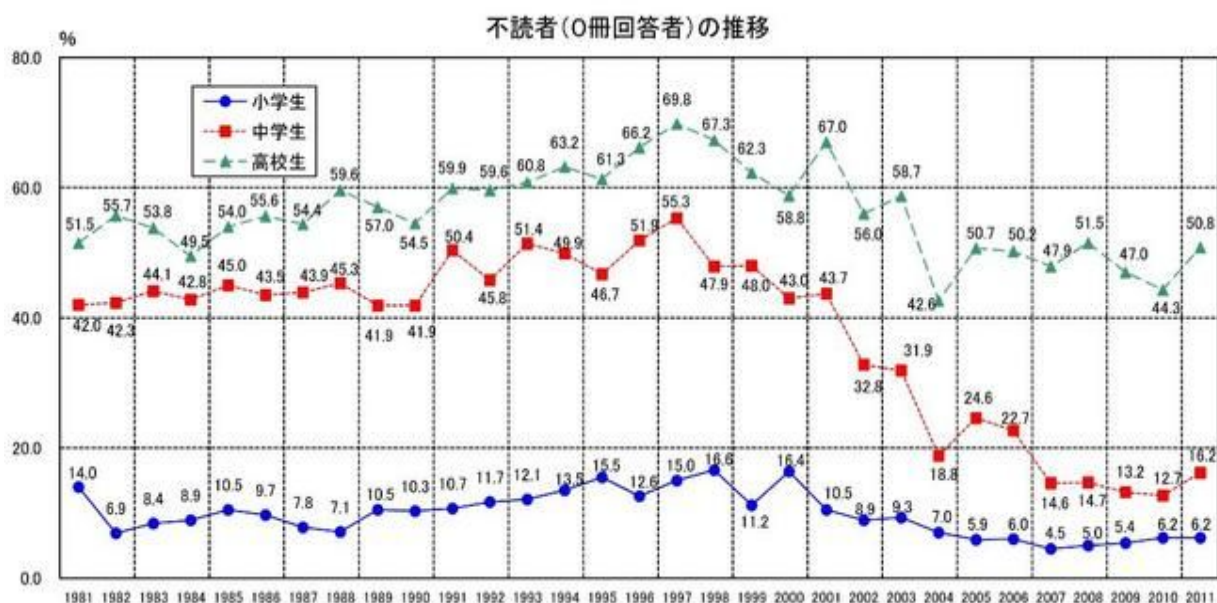
#### ○読書量について（全国）

子どもたちの1か月に読む本の量は、2011年調査では、小学校4年生から6年生は9.9冊、中学生3.7冊、高校生1.8冊でした。経年変化を見ると下表の通り、確実に読書量は増えています。



10年前の2001年調査時における平均読書冊数と比較すると、小学生では3.7冊増となっており、増加傾向であることがわかります。また、中学生でも1.6冊増と地道ながらも着実な増加が見られ、高校生では0.7冊増とほぼ横ばいで推移していることがわかります。

○1 か月間、本を一冊も読まなかった子どもについて（全国）  
 一方で、1 か月の間に本を1冊も読まなかった人（不読者）の割合は、小学生は6.2%、中学生は16.2%、高校生は50.8%となっています。



2011年と2010年を比べると、小学生は変わらず、中学生・高校生はそれぞれ増加となりました。ただし、10年前(2001年)との比較でみると、小学生では4.3%減、高校生で16.2%減と着実な減少傾向が見られ、さらに中学生では27.5%減と大幅に減少していることがわかります。

このように、この10年間で平均読書冊数の増加という垂直的な変化だけでなく、不読者の減少、つまり読書の裾野の平面的な広がりという2方向への拡大傾向が見られ、朝の読書全校一斉実施運動（あさどく）や、読書ボランティアによる読み聞かせの実施など、小学校での継続的な読書推進指導によって読書が習慣化したことで、子どもの成長過程において、中学生、高校生になっても本を読むことに対して抵抗が少なくなっているのではないかと予想されます。

「子どもの活字離れ」という言葉を耳にしますが、実際には、子どもにとって活字は身近なものになってきています。



## (2) 北見市における子どもの読書活動の実態

北見市における子どもの読書活動を把握するため、平成 24 年 7 月～8 月にアンケート形式による調査を行いました。全国的な子どもの読書活動の実態（読書世論調査）と同じく小学校 4 年生から高等学校までを対象とし、北見市学校図書館協会、全自治区の小学校・中学校・高等学校（私立含む）と協力して実施しました。各学年から 1 学級を選び、その学級全員を対象とし、回答を得ています。

（全回答数は 3,055 人）

本調査の学年別内訳回答人数

単位：人

小学校	4 年生	5 年生	6 年生	無回答	計
回答数	442	462	433	18	1,355

単位：人

中学校	1 年生	2 年生	3 年生	無回答	計
回答数	299	348	345	4	996

単位：人

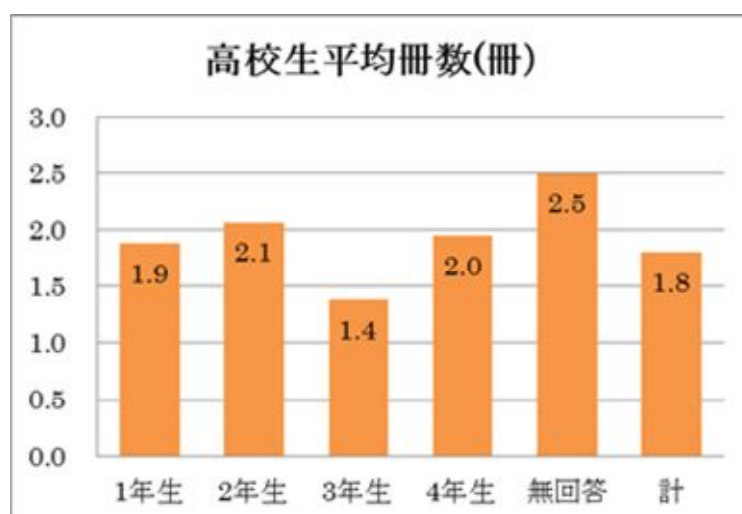
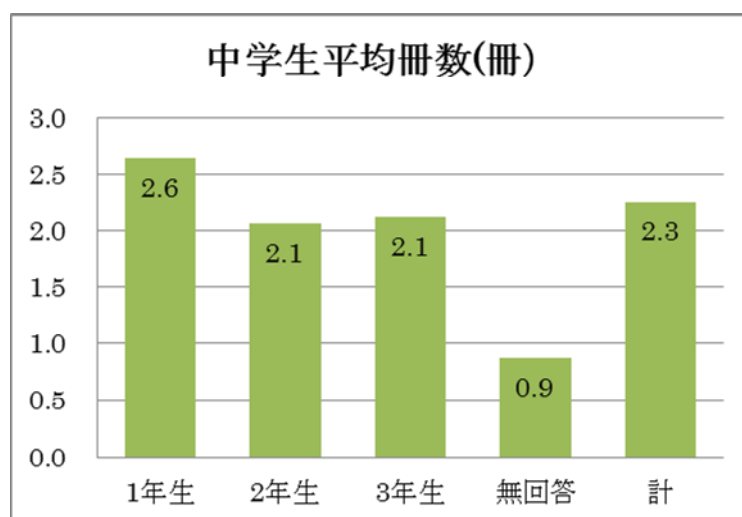
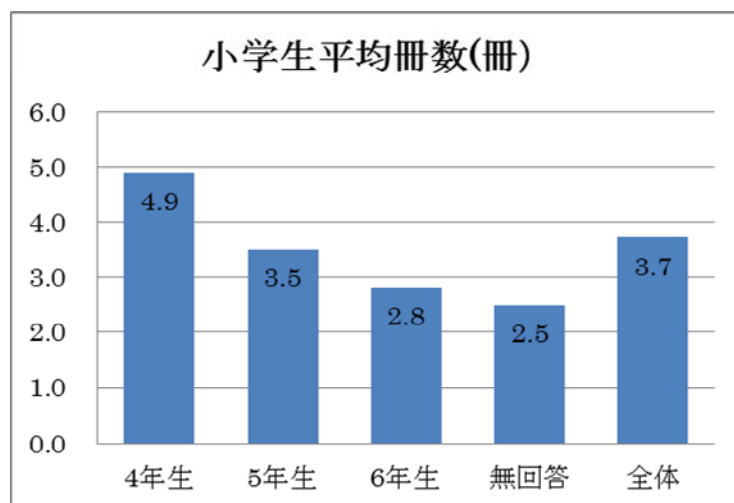
高等学校	1 年生	2 年生	3・4 年生	無回答	計
回答数	208	259	235	2	704

### ①北見市における子どもの読書量の状況

#### ・1 か月に読む本の平均冊数

設問の数値設定の違いによる影響があるかもしれませんが、北見市内の小学校に通う 4 年生から 6 年生までの、1 か月の読書量は全体で 3.7 冊でした。（読書世論調査では 2011 年の小学生の全国平均は 10.0 冊）また、北見市内中学校に通う 1 年生から 3 年生までの 1 か月の読書量は、全体で 2.3 冊でした。（2011 年の中学生の全国平均は 4.2 冊）

また、北見市内高等学校に通う 1 年生から 3 年生までの 1 か月の読書量は、全体で 1.8 冊でした。（2011 年の全国平均 1.9 冊とほぼ変わらない値）



・1か月に読む本の段階別冊数

本調査では、1か月に読む本の冊数を段階別にして質問しました。最も多かった答えは全学年共通して「月1～2冊ぐらい」でした。全国的な傾向と同じく、学年が進むにつれて子どもの読書冊数が減少し、読まなくなる率が高くなっていきます。

単位：％

学年	10冊以上	5～9冊	3～4冊	1～2冊	読まない	無回答
小学生	13.5	15.7	21.7	34.0	14.6	0.5
中学生	5.0	8.6	15.5	41.0	29.9	0.0
高校生	4.0	4.2	12.0	45.8	34.0	0.0

・1か月に1冊も本を読まなかった児童・生徒（不読率）について

**小学生**

1か月に1冊も本を読まなかった児童は14.6%で、2011年の全国調査は6.2%でした。読まない理由としては、「勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい（25.9%）」、「読みたい本が見つからない（22.8%）」、「友だちと遊んでいるほうが楽しい（19.3%）」、「本には興味がない（19.3%）」という回答が多い結果となりました。その他、地域的な大まかな傾向としては、1学年3クラス以上の大きな学校では、図書館分館分室や学校図書館配架冊数が多いにも関わらず、小規模校に比べて読書量が少ない傾向にありました。

単位：％

読まなかった理由	割合
勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい	25.9
友だちと遊んでいるほうが楽しい	19.3
本に興味がない	19.3
読みたい本が見つからない	22.8
本を読むとつかれる	4.6
その他	8.1
無回答	0.0

### 中学生

1 か月に1冊も本を読まなかった生徒は29.9%、2011年全国調査では12.7%で2.4倍でした。読まない理由は、「勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい(29.0%)」、「本には興味がない(27.4%)」、「読みたい本が見つからない(21.8%)」という回答が多く、地域や学校の違いによる傾向は特に見られませんでした。

単位：%

読まなかった理由	割合
勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい	29.0
友だちと遊んでいる方が楽しい	8.6
本に興味がない	27.4
読みたい本が見つからない	21.8
本を読むとつかれる	5.3
その他	7.9
無回答	0.0

### 高校生

1 か月に1冊も本を読まなかった生徒は34.0%であり2011年全国調査では44.3%となっており、全国平均より読まない生徒の割合は低い結果となりました。読まない理由は、「読みたい本が見つからない(25.5%)」、「勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい(25.1%)」、「本には興味がない(18.7%)」、という回答が多い結果となりました。

単位：%

読まなかった理由	割合
勉強やクラブ活動、習い事、塾で忙しい	25.1
友だちと遊んでいる方が楽しい	10.4
本に興味がない	18.7
読みたい本が見つからない	25.5
本を読むとつかれる	6.4
その他	12.7
無回答	1.2

• 本を選ぶ基準

北見の子ども達が本を選ぶ際、何を基準にしているのか調査しました。学年による顕著な傾向の偏りは見られず、絵本などの影響もあり、年少者に表紙・題字などの見た目で選ぶ傾向があります。

**小学生**

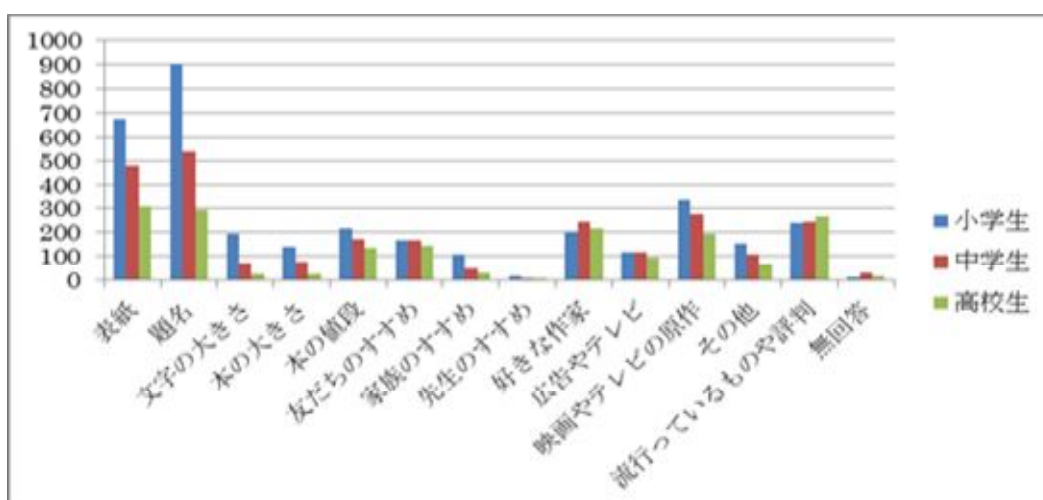
1位「題名」2位「表紙」3位「映画やテレビの原作」

**中学生**

1位「題名」2位「表紙」3位「映画やテレビの原作」

**高校生**

1位「表紙」2位「題名」3位「流行っているものや評判」

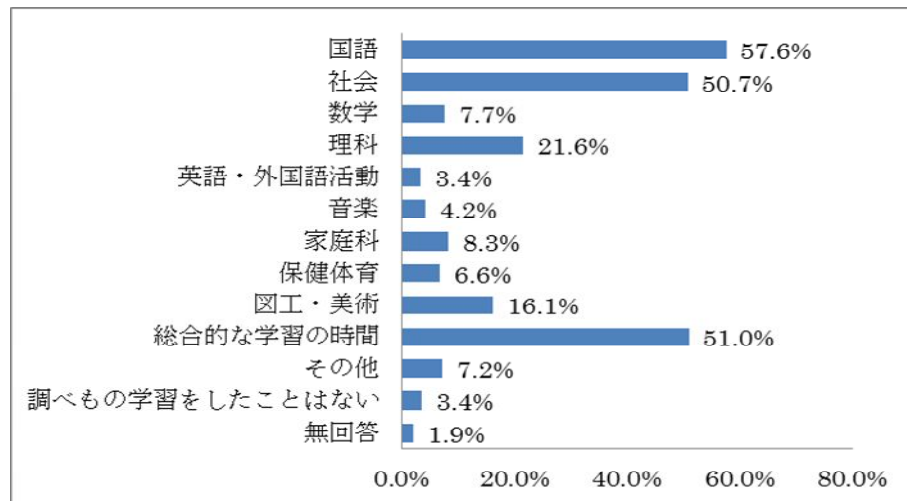


※それぞれの「本を選ぶ基準」の上にある3つの棒グラフは、左側より小学生、中学生、高校生の順となっています。

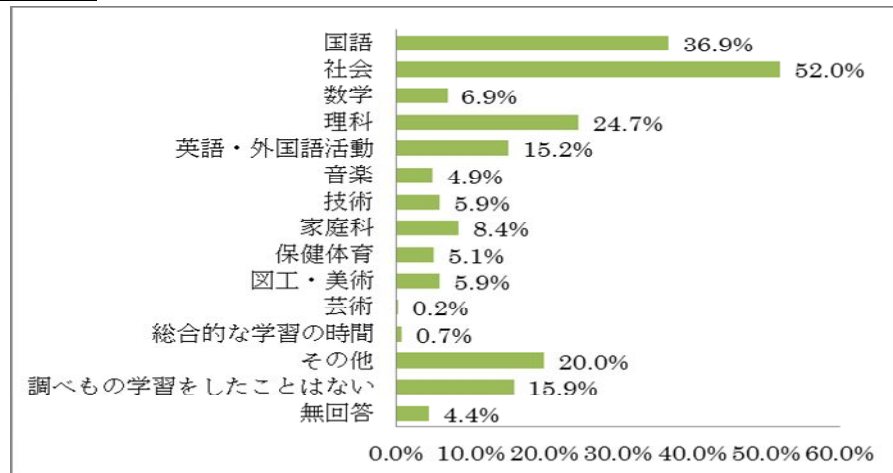
## ②北見市における調べ学習の状況

北見の子ども達が調べ学習をする際、どの教科で、どのような資料を使っているのか調査しました。今後、学校図書館や市立図書館から学校への支援図書を整備する際、読み物だけではなく、調べ学習に役立つ資料も充実させていく必要があります。

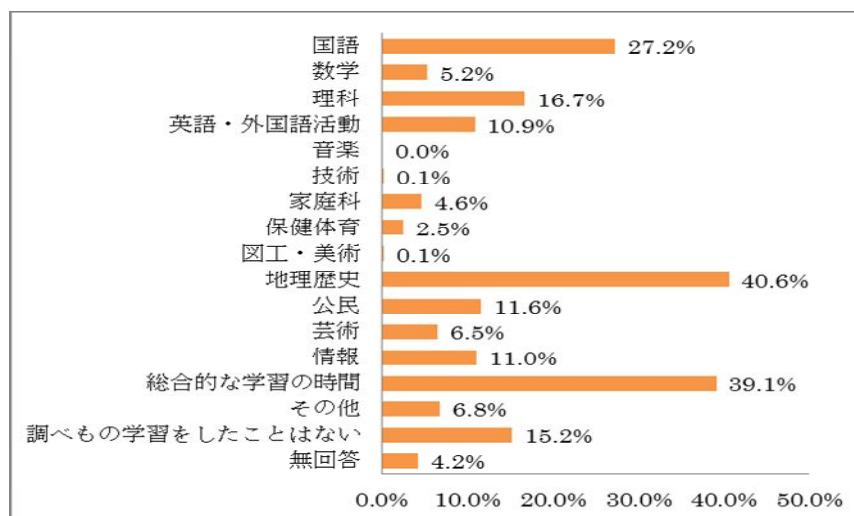
**小学生** 1位「国語」2位「総合的な学習の時間」3位「社会」



**中学生** 1位「社会」2位「国語」3位「理科」



**高校生** 1位「地理歴史」2位「総合的な学習の時間」  
3位「国語」



③本を読む場所について

北見市の子どもが主にどこで本を読むかを調査しました。

各学年共通して、「自分の家」が最も回答数が多く、2位が「学校」、3位が「図書館」という結果となりました。

場所	小学生	中学生	高校生
ア. じぶんの家	47.0	51.6	52.3
イ. 学校	31.6	28.2	30.4
ウ. 友だちの家	3.3	2.4	2.9
エ. 図書館	11.1	10.1	6.8
オ. 児童館、公園など	1.8	0.2	0.2
カ. 駅や大型店・病院などの施設	1.7	1.9	1.3
キ. 車やバス、自家用車の中	1.7	3.2	3.7
ク. その他	1.4	1.1	0.9
無回答	0.4	1.3	1.5

#### ④北見市の子どもの「読み聞かせ」経験について

「両親」という回答が最も多く、家庭での読み聞かせが主流となっていることが伺えます。また、次点は「保育園・幼稚園・学校の先生」でした。

今後、「読み聞かせ」を行う上では、やはり家庭を対象にした進め方が主力になってきます。今回は両親の性別を分けて調査しませんが、父親や祖父母を対象とした、読み聞かせや絵本等の選書への支援が、読み聞かせ推進には有効な手段の一つと思われます。

学校などを対象とした全国の事例では、読み聞かせから一步段階を進め、子どもの自主的な読書欲求を刺激するようなブックトーク講座などがあげられます。

読み聞かせをしてもらった人	小学	中学	高校
ア. お父さん、お母さんから	43.4	43.8	42.9
イ. きょうだいから	5.8	6.0	3.4
ウ. おじいちゃん、おばあちゃんから	12.0	7.6	7.0
エ. 保育園・幼稚園・学校の先生から	28.8	29.4	29.3
オ. その他	2.5	3.2	3.1
カ. ほとんど読んでもらったことがない	6.6	8.7	12.8
無回答	0.9	1.3	1.5

#### ⑤まとめ

保護者の就業形態の多様化、塾や習い事の時間の増加など、子どもを取巻く生活環境は大きく変化しています。携帯電話で読むことができる小説や漫画、新たなメディアでの読書も話題となり、情報を得る方法は数年で様変わりしています。

一般的に小学～高校では、年を重ねる毎に読書量は減り、不読率が高くなる傾向にあります。理由としては、手にとる本の内容やページ数の厚みが増すことが上げられ、今回の調査でも同様の傾向が見られました。

全国数値と比べて、小学生・中学生で読書量は少なく、不読率は高くなっています。また本を読まない傾向は本を手に取りやすい環境にある学校ほど強い傾向があるため、環境的要因より、本そのものに楽しさを感じない気質的要因が大きいかもしれません。高校生の読書量はほぼ全国平均、不読率は2割以上低くなっており、本に親しんでいる傾向が見られました。



### (3) 学校図書館と公共図書館への期待

学校図書館は「読書センター」「学習・情報センター」「心の居場所」など、授業への取り入れや児童が過ごす場所として活用する動きがあります。この動きとともに、公立図書館の学校図書館に対する支援として、図書の貸出や研修などの協力が期待されています。

北見市の学校図書館にそのまま当てはまるかどうかわかりませんが、北見市立図書館全体としての支援をどのようにできるか、方策をさぐる必要があるなっています。

自治区	内 容
北見	<p>学校図書館アンケートより（平成 23 年度実施）</p> <p>○小中学校での学校図書館の状況（北見自治区内小中学校 29 校）学校図書館には、平成 15 年から、12 学級以上の学校に学校図書館司書教諭の配置が義務付けられています。北見市内では、9 校に配置されており、専任ではなく、通常の学級指導業務との兼務で行われています。</p> <p>ほとんどの学校で、ラベルなどによる配架・分類は行われています。図書の貸出は、ほとんどの学校で毎日、図書委員の生徒によって行われています。</p> <p>○クラス単位での状況</p> <p>学級文庫は、61%のクラスで設置されています。また、朝の読書は 58%のクラスで行われています。</p>
端野	<p>移動図書館車が、毎週水曜日、端野小学校を訪れ、巡回文庫として貸出業務を行っています。また、端野小学校の各学級に 3 週間に一度団体貸出を行っています。</p>
常呂	<p>自治区内 4 つの小中学校に、移動図書館車が 2 週間に 1 回訪問して貸出サービスを行っています。また、中学校には 2 週間に 1 回、学校の図書室を利用して貸出しています。小中学校合わせて 22 クラスに、月 1 回貸出を行っています。</p>
留辺蘂	<p>自治区内 5 つの小中学校に移動図書館車が毎週訪問して、貸出サービスを行っています。また、温根湯中学校と瑞穂小学校に、月 1 回学級文庫の配本を行っています。瑞穂小学校で月 1 回程度ブックトークと読み聞かせを行っています。</p>

## 2. 子どもへの図書館サービスの提供と利用の動向

第1次計画では、子どもの読書活動を推進するための方向性が示され、実施されています。複数の方向性と考え方でひとつの活動を行っているものもあるため、主な活動について取りまとめています。

### (1) 子どもの読書活動への主な支援

団体貸出は1か月で100冊を上限として貸し出すことができる制度です。主に保育園、児童館、学校などが利用しています。

平成23年度の団体貸出は、北見市全体で36,431冊であり、子どもが利用する施設等での貸出冊数は32,752冊となりました。児童書貸出総数303,715冊のうち11%がこの団体貸出の制度を利用して貸出されています。

端野図書館では、移動図書館車の巡回文庫で端野自治区の小学校・児童館等8箇所を週1回で巡回しています。また、保育所や幼稚園など4箇所を月1回の割合で、合計12箇所を巡回しています。

常呂図書館では、移動図書館車で常呂自治区5箇所の保育所・4箇所の小学校、計9箇所を月2回の割合で巡回し、来館困難な幼児への絵本お届けサービスなどを行っています。

留辺蘂図書館では留辺蘂自治区内の保育園、幼稚園、中学校・児童館など、子どもの読書活動に関連した施設としては9箇所を週2回、小学校は週1回の割合で巡回しています。

平成23年度 自治区別内訳 児童書貸出冊数

自治区	児童書 貸出冊数 A	Aのうち小・中学 校等への団体貸出	Aのうち移動図書館車 による児童書貸出
北見	219,793	15,658	—
端野	26,867	8,169	5,011
常呂	23,651	7,000	7,715
留辺蘂	33,404	1,925	11,102
合計	303,715	32,752	23,828

## (2) 利用状況・児童書蔵書数

平成 23 年度における蔵書に占める児童書の割合は 29%、貸出冊数に占める児童書の割合は 35%となっています。

### 平成 23 年度 児童書蔵書数と貸出冊数

	図書蔵書冊数	図書貸出冊数	うち児童書	
			蔵書冊数	貸出冊数
中央館	275,429	336,429	49,871	91,019
東分館	68,223	137,600	25,828	55,606
緑地区分館	45,897	138,992	17,916	48,638
上ところ分室	24,327	19,719	10,564	7,584
相内分室	20,422	17,906	8,583	7,743
東相内分室	13,861	17,593	6,262	9,203
北見自治区計	448,159	668,239	119,024	219,793
端野館 計	78,512	64,459	25,119	26,867
常呂館 計	60,526	49,227	19,110	23,651
留辺蘂館 計	138,121	100,489	45,270	33,404
合計	725,318	882,414	208,523	303,715

## (3) 地域での子どもの読書活動を支える活動

読み聞かせやブックスタートの考え方を取り入れた活動は、乳幼児健診など親子で参加する機会に職員等が出向き、読書を楽しむことを伝えています。

また、中央館では週 1 回、上ところ分室では月 1 回、東分館では年 3 回程度、地区館でもボランティアによる定期的な読み聞かせを行っています。各地区館では、それぞれ活動内容の違いはありますが、図書館主催の行事などについてボランティアと協働で様々な催しをしています。

今後は、図書館内だけでなく、ホームページや広報紙により活動を広く紹介し、保護者の目につきやすいよう工夫することが大切です。

## (4) ボランティア団体等の活動

現在、読み聞かせなど子どもの読書活動に関連するボランティア団体は、市内に 7 団体（北見 5、端野 1、留辺蘂 1）あり、図書館と連携または独自の活動を続けしており、個人で定期的に読み聞かせを行っ

ている方もいます。

また、各学校では、総合学習の時間に、保護者が読み聞かせを行っているクラスもあります。

また、児童館、保育園、幼稚園ではボランティア団体が出向き、読み聞かせの活動を行っています。

図書館で行っている「読み聞かせ」  
(主に職員やボランティア団体による)

自治区	内 容
北見	○中央図書館（週 1 回） 「お話の会 読み聞かせ会」 月 2 回 「ころぼっくる 読み聞かせ会」 月 2 回 ○上ところ分室 個人ボランティアによる 月 1 回 ○東分館 個人ボランティア 年 3~4 回
端野	「とびらの会 読み聞かせ会」 月 1 回
常呂	「お話の部屋 読み聞かせ会」 月 2 回
留辺蘂	「あのね 読み聞かせ会」 週 1 回

図書館・ボランティア団体が行っている催し

自治区	内 容
北見	○春のお楽しみタイム                      ○児童文学者講演会 ○乳幼児絵本ふれあい事業                  ○クリスマス会
端野	○絵本読み聞かせ講演会                      ○まつぼっくりでつくろう
常呂	○絵本ふれあい事業                              ○図書館お楽しみ講座
留辺蘂	○七夕読み聞かせ会                              ○手作り絵本講座 ○クリスマスお楽しみ会                      ○支援センターミニ講座 ○絵本作家講演会                                  ○絵本原画展

(5) 青少年を対象としたサービス

青少年を対象としたサービス（以下、ヤングアダルトサービス）に関しては、各館ともに中学生・高校生向け資料を揃えており、書棚の一部にコーナーを設置して、人気があるファンタジー小説や文学を展示しています。また、常呂図書館では、中学校の図書室において月2回ほど個人貸出を行っています。

### 3. 子どもの年齢に応じた読書推進

子どもの読書推進活動は、成長過程に応じて行う必要があります。

子どもたちの読書経験や読書能力に個人差があることを念頭に置きながら年代別に適した本との関わり方ができる環境づくりが大切です。

#### 0～3歳

読み聞かせの音・響きを楽しむ時期。大人とふれあうことで、コミュニケーション能力や対人関係の発達が促進されます。

#### 4～5歳

絵本の内容が理解できるようになる時期。繰り返し同じ作品を読んでもらいたがります。子どもにとっては、繰り返すことではなく、満足するまで読んでもらうことが大切なので、読み聞かせる大人にとっては、辛抱が必要な時期です。

#### 6～8歳

学校という新しい世界が開かれ、社会性、言語活動などが大きく伸びていく時期。知能が進み、人の心が理解できるようになり、本の登場人物の行動をとらえ、気持ちが分かるようになります。

○ことばの発達を促す

- ・絵を読む
- ・文字や文を読むことからはじめ、文章を読み取る力を育てる

○読書への興味を育てる

- ・絵本に親しむ
- ・絵本から、豊富な挿絵の入った物語へ
- ・昔話や童話など、知的好奇心を満たす本へ
- ・中編への足がかりを準備する

#### 8～10歳

心身ともに活動的になってゆく時期で、行動範囲も広がり、他律的な行動傾向から、主体性が育まれてくる。個人差や性差による読書傾向の開きがさらに大きくなります。

○本を選ばせる

与えられた本で満足する傾向が少なくなるため、自分で選んだ本や読書でないと納得しなくなりだします。個々の子どもの欲求にかなう本を共に探し、巧みに与えていく工夫が必要になります。

### ○読みの発達と広がり

この年代では、本から正確な知識を得ることが第一義ではないため、幅広い分野の本に親しめるように配慮することが重要です。興味を持てる分野を見つけることや、その分野への能動的な気持ちや行動を誘うことに意義があります。

## 10歳～12歳

人生の中で、最も性差による読書興味の相違が現れる時期。加えて幼い頃からの順調な読書活動が積み重ねられてきた場合は、子どもたちの読書意欲は最高潮に達します。「読みの発達と広がり」に加え、「人間形成への働きかけ」という視点を加えて選書する必要があります。

### ○性差、個人差の広がり

男の子は冒険・探偵ものや推理小説の手法を駆使した児童文学が好まれ、女の子は特に情緒面での発達が著しく、人間関係や愛情物語など、感情に訴えるものが好まれます。特に早熟な子などは、ラブストーリーを好むようになります。

### ○ノンフィクション

個々に興味をもつ対象を見つけ、趣味や技術の本から知識を得始めていきます。

## 13歳～15歳

第2次成長期をむかえ、身体的にも精神的にも大人に近づいてくる時期です。社会や文化的なものへの関心、より高度な知識や技術を求める気持ちが高まっています。

### ○思春期特有の悩みをかかえた作品

思春期を迎えて、情緒面の不安定さや人間関係の悩みを持ち始める時期です。青春の悩みや痛みを描いた作品に共感や解決の糸口を探す子どもも多くなります。

### ○読書興味の個別化

興味・関心の分野が個別化し、文学作品よりもノンフィクションや専門雑誌などへの興味が高まっています。

## 16歳～18歳

読書量の個人差、はっきりとした読書傾向が分かれている時期。軽いタッチの文学作品のほか、社会への関心が芽生え、ノンフィクションが読まれる傾向にあります。

#### 4. 課題の整理

子どもの読書活動を取り巻く現状を調査結果や資料によって検証する中で、いくつかの課題が浮き彫りになってきました。

ここでは、図書館の側から見た課題の整理を行いながら、次の施策展開では北見市全体の取り組みにつなげます。

##### ○家庭における読書の大切さ

北見市の児童・生徒を対象とした読書調査の結果から、「家庭で読む」「幼児期に家族から読み聞かせをしてもらった」割合が高いことがわかりました。幼児期から絵本に触れる、家庭で読み聞かせの機会を高めることなど、家庭での読書活動がより一層進展するような働きかけが必要です。

##### ○学校図書館への支援

「朝の読書」の充実や学校図書館の機能を高めるために、団体貸出の制度や移動図書館の運行を活用して支援することが必要です。期待されている公共図書館の役割をどのように発揮するか検討が必要です。

##### ○子どもの発達に即した読書活動

子どもは、幼児期から小学・中学・高校へと心身の発達・成長に伴い、読書傾向・嗜好・生活実態が変化します。年齢とともに減少する読書量の背景にある子どもたちの読書傾向、生活の実態に合わせた取り組みが求められています。

##### ○ボランティア活動への支援

図書館におけるボランティア活動は、子どもの読書活動を推進する上で大切な役割を果たしています。活動の場を用意し、活動しやすい環境づくりを行うとともに、図書館とボランティアが自立性を保ちつつ協力しながら、さまざまな事業を行うことが必要とされています。また、ボランティア活動を一層活発にするため、ボランティア活動を紹介・養成する事業の展開も求められています。

##### ○「連携」の大切さ

家庭・学校・ボランティアなど子どもの読書活動を推進するためには、裾野の広がりが必要です。

前回の計画で、保育園（所）・児童館・子育て支援センターなど子ど

もが関わる様々な場で読み聞かせなどが日常的に取り組まれていることを紹介していますが、子どもの読書活動を豊かなものにしていくためには状況を知り、情報を共有し、市民に広報し、可能な連携策を検討することが必要です。

#### ○北見市立図書館が果たす役割の重要性

北見市立図書館は、中央館・分館・分室・地区館合わせて9館と移動図書館車を運行（端野・常呂・留辺蘂）して広い地域をカバーしています。

従来から、4自治区とも児童図書の出が占める割合が高く、児童へのサービスを重視してきました。各地区館における事業内容は違いますが、それぞれ工夫を凝らした事業を行い、児童サービスの充実、情報の収集や提供、資料の提供、仲間づくり、読書活動につながる事業展開を図ることが必要です。

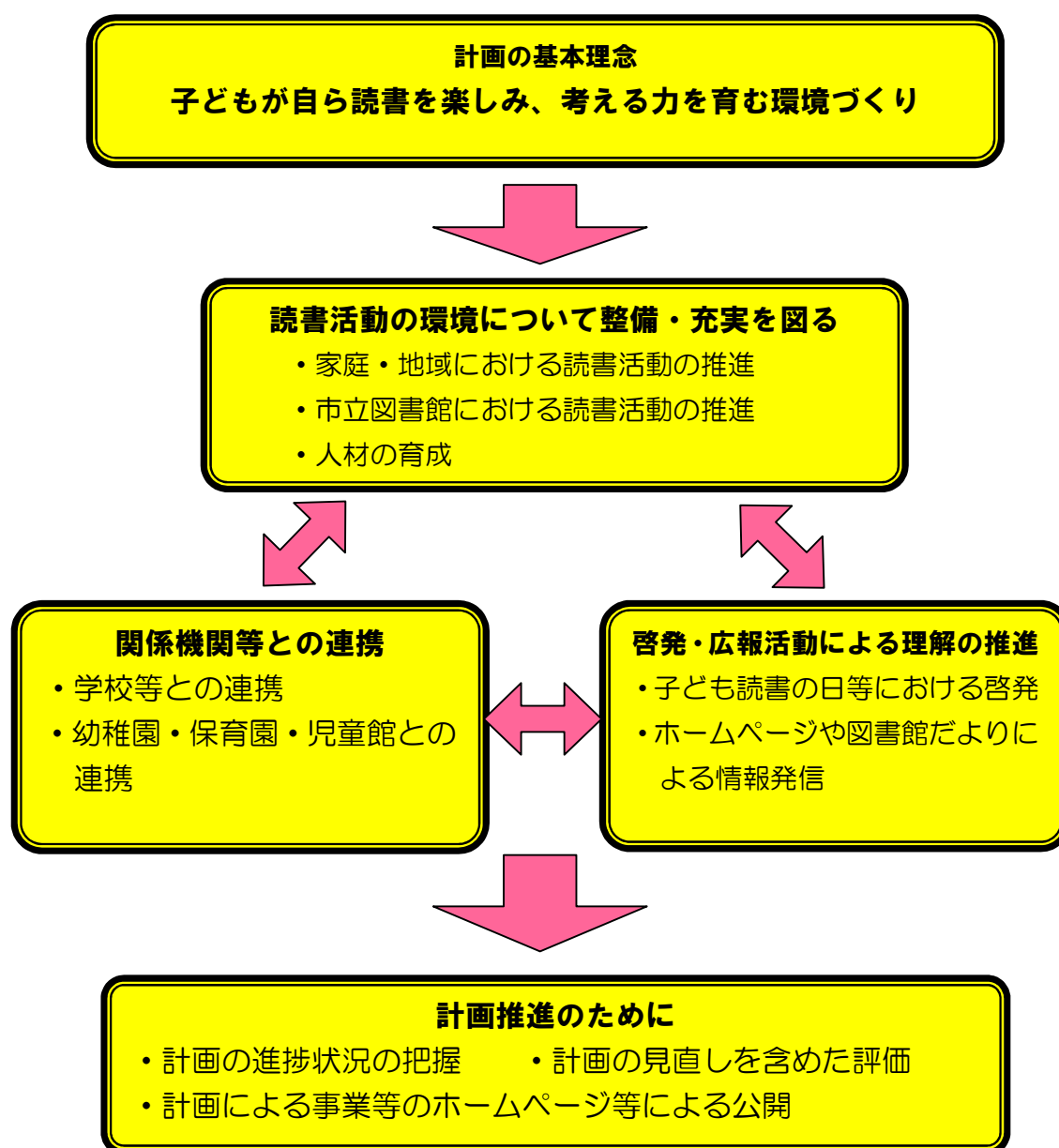


## 第3章 計画策定の基本的な考え方

### 1. 基本的な視点

子どもの自発的な読書活動は、子ども自身の理解力を高め、感性を磨き、想像力を豊かにするとともに読書を通して成長に必要な経験を補い、社会への適応力を育みます。このような自発的な読書活動を身に付ける上で幼児期からの読書習慣の形成が重要な役割を果たします。

様々なことに関心を示し、知的好奇心を持ちながら成長していくのは子どもの本能です。この考え方を基本的な視点とし、環境づくりを目指します。



## 2. 成果指標

子どもの読書量を推し量る一つの指標として、読書活動アンケートにおける「1 か月に読んだ本の平均冊数」、「1 か月に一冊も本を読まなかった人の割合（不読率）」を目安とします。今回からはじめての試みですが、北見市の現在の平均冊数は、2010 年の全国平均からかなり低いことから、全国平均値を指標とし、目指していきます。

### 1 か月に読んだ本の平均冊数（冊）

区分	小学生	中学生	高校生
平成 23 年	3.7	2.3	1.8
指標数値	10.0	4.2	H23 を上回る

※ただし、高校生の全国平均は 1.9 であり近値であることから、H23 を上回るよう目指します。

### 1 か月に一冊も本を読まなかった人の割合（不読率（%））

区分	小学生	中学生	高校生
平成 23 年	14.6	29.9	34.0
指標数値	6.2	12.7	H23 を上回る

※ただし、高校生の全国平均は 44.3 であることから、H23 を上回るよう目指します。

## 第4章 施策の展開

### 基本目標1 読書活動の環境について整備・充実を図る

#### 【基本施策（1） 家庭・地域における読書活動の推進】

子どもの読書習慣の形成は、本に親しみ、読書をすることに興味・関心をもつことから始まります。家庭での読み聞かせや親子で一緒に本を読んだりするなどの体験を通して読書と出会う機会を与えることで、子どもたちが将来にわたって自発性をもつ可能性が広がっていきます。市では、司書やボランティアによる読み聞かせを行っており、読書の楽しさを伝えていきます。

##### 《主な活動》

- ・乳幼児健診や育児学級の会場での読み聞かせなどを通して、家庭での読み聞かせや親子で読書を楽しむ重要性の啓発に努めます。
- ・親が参加できる読み聞かせ講習会や各種情報提供を行い、子どもと一緒に本を読み、図書館に出向いたりするなどのきっかけづくりを図ります。
- ・ボランティア団体等と連携し、幼児期からの読み聞かせなどを充実します。

#### 【基本施策（2） 市立図書館における読書活動の推進】

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちが触れ合う場所に本を整備して読書への欲求を喚起し応えることが重要です。わかりやすく手に取りやすい本の並べ方など、子どもが利用しやすい「こども図書室」や中学生、高校生向けの図書資料の充実を図ります。

北見市では、各自治区のそれまで培ってきた地域での活動を考慮しながら、小説や読み物をはじめ、趣味・スポーツ、歴史、科学の読み物など広い分野での児童図書の充実、道立図書館やオホーツク圏の公共図書館と相互に図書資料の貸借を実施し、多様な図書資料の提供に努めます。

また、移動図書館車は、交通手段が限られた方など図書館利用が困難な状況を緩和し、学校図書館では所蔵していない図書の貸出ができるため、利用者のニーズに応えながら利用促進に努めていきます。

#### 《主な活動》

- 子どもの読書相談を行い、ブックリストを作成・提供します。
- 子どもからの調べ物に対するレファレンス・サービスを強化します。
- 各年齢層に即した資料の充実を目指します。
- 分館・分室や移動図書館車による地域密着サービスに努めます。
- 情報紙の発行・充実に努めます。
- 中学生、高校生向けの本を整備して図書館サービスとして位置づけ、効果的なサービスに取り組みます。

#### 【基本施策（3） 人材の育成】

図書館司書は図書館資料の選択・収集・提供、利用者に対する読書相談、子どもの読書活動に対するアドバイスをするなど、専門的な役割を果たしています。本市では、中央図書館のほか、地区館に有資格者を配置しており、子どもや保護者のニーズに応えられるよう研修等の充実を図っていきます。

保育園や児童館では、日常的に読み聞かせを行っており、それぞれ単独では蔵書が少ないため図書館から絵本や紙芝居を借りていますが、読み聞かせの質的向上を図りたい職員がいることから、需要調査を行いつつ支援します。

また、新中央図書館建設に伴い、ボランティアが重要な位置を占めるため、養成のための講座等による支援を図ります。

#### 《主な活動》

- 職員や嘱託職員における有資格者の適正配置
- ボランティア団体等の自発性・独立性を維持しつつ育成・支援
- ボランティア団体等の活躍できる場や機会の提供
- 個人のボランティアが参加できるよう受入体制を検討
- 職員研修の機会を提供

## 基本目標2 関係機関等との連携

### 【基本施策（1） 学校等との連携】

学校は、児童・生徒の自由な読書活動や読書指導の場であり、想像力を培い、向学心や関心を呼び起こす場として機能しています。学校図書館アンケートでは、「学校図書館にない図書資料の貸出」「児童に対するおすすめ本の紹介」「図書資料の管理と整理方法のアドバイス」「時間的になかなか市立図書館に行き、借りることができない」という問題意識をもっていることがわかりました。

これらを整備することで、「朝読」などの読書活動を通じ、学校や家庭における読書習慣を確立するよう努めていきます。

一方で、学校の読書活動や学校図書館の状況について調査を続け、効果的なサービスを検討します。また、学校等での読み聞かせを行っているボランティアを支援するため、学校図書館と連携して図書資料の提供・支援に努めます。

#### 《主な活動》

- 学校等への資料提供・情報提供・現状調査を行います。
- 学校図書館及び関連部署と連携して、学校図書の管理や書架レイアウトの相談、不足する分野に対する図書の貸出を行い、読書環境の整備に努めます。
- クラスごとに行っている団体貸出サービスのPRに努めます。
- 北見自治区内における学校への移動図書館車によるサービスを検討します。
- 端野、常呂、留辺蘂の各地区館にある移動図書館車による貸出を充実します。

### 【基本施策（2） 幼稚園、保育園、児童館等との連携】

幼児期における読み聞かせや読書は子どもの心の成長に大切です。この視点に立ち、幼稚園、保育園、児童館等において、日常的に行われている読み聞かせを支援し、保護者に対しても幼児期の読み聞かせの意義を啓発する取り組みを検討し推進します。

また、幼稚園、保育園、児童館等での読書活動を推進するため、資料提供

と情報提供を行いつつ、団体貸出による利用促進に努めます。

《主な活動》

- ・読み聞かせに使用する図書資料の団体貸出による支援をします。
- ・様々な児童書の紹介と図書館利用への啓発活動を図ります。
- ・各施設の職員・ボランティア団体・保護者等と協力しつつ、広く読書について意識を高めることができるように支援します。

基本目標3 啓発・広報活動による理解の推進

【基本施策（1） 子ども読書の日等における啓発】

子どもの読書活動を推進するためには、読書に関する各種情報を提供し続けることが大切です。市立図書館のホームページや民間誌等による新規購入図書の状況、年間を通して継続的に行われている各地区館の独自の活動や施設での読書活動に関連する活動情報などを広く提供し、子どもの読書活動を推進するための広報・啓発に努めます。

《主な活動》

- ・年間を通して、親子で参加できる読み聞かせなどの広報と啓発活動
- ・子ども読書の日（4月23日）にふさわしい行事の広報と啓発活動

【基本施策（2） ホームページや図書館だより等による情報発信】

《主な活動》

- ・イベント開催の様子や図書館だよりなどの情報紙を学校、保育園、児童センターなどの施設に提供していきます。
- ・本の紹介や行事に関することを積極的に学校等へ発信します。
- ・子どもの読書の重要性や読み聞かせの方法など、子どもに関する大人向けの講座の開催に努めます。

## 第5章 計画推進のために

### 1. 計画推進に向けて

計画の推進にあたっては、家庭・学校・ボランティア・地域などが、それぞれの役割を担いながら、協力していくことが重要です。

#### 《家庭の役割》

子どもの生活の基本は家庭です。読み聞かせなどを積極的に取り入れることで、絵本による情操教育、親子のきずなを深めることができます。また、子どもたちが読書するための条件として、

- ①身近に本があること
- ②身近に読書する人がいること
- ③読書する時間を作ってやること

などがあげられます。これらも家族からの影響を大きく受けます。

#### 《保育園・幼稚園・学校の役割》

- ・「朝の読書、休み時間を利用した読書」「読み聞かせ」など、本に親しむことで、読書の習慣化を進めます。
- ・子どもの生活の中の問題と読書を結びつけ、よりよい生活を展開していく意欲と力を育てます。
- ・調べもの学習を通して、本を使って調べる力を養います。
- ・学校図書館協会と共に読書感想文コンクールを実施して、読解力・表現力を培うため、学校における読書感想文の取り組みを支援します。

### 2. 計画の運用

進捗状況の把握・点検を行うとともに、事業の見直しも含め計画の推進を図ります。また、実施内容についてはホームページなどで広く市民に公開します。